

佐用郡三日月町の蛾覚え書

川 副 昭 人

日本各地の蛾の分布に関する資料は蝶に比べるとまだまだ貧粗で、とくに西日本では報文が少ないようである。京阪神の代表的な山や著名な採集地からできえ蛾に関する記録や報告は全く断片的で、古くから採集されているにもかゝらずまとまったものを殆んど見ない。漸く最近、熱心な若手の愛好者達によって、それらの不十分な記録の集積の上に最近の採集成果を重ねて、関西の何ヶ所かで蛾の目録作成が手がけられるようになった。しかし何と言っても蛾の採集者がもっと増えないことには、完全なリストの作成は程遠い事に思われる。

ここに述べようとする三日月町は地形的に極めて平凡な山間盆地で、これといった自然地理上の特色は一つ無いといってよい。私の採集地点は小さな盆地の中へ北から張り出した丘陵末端部の、ちょっとした針広混雑林に囲まれた山寺の門の下で、海拔高度220m、国鉄姫新線三日月駅から2kmの道のりである。昆虫相を一口で言えば全く平凡の一語に尽き、どこにでもいる普通種が圧倒的に多く、当然その総種類数もさほど多くない。もっと北へ行けば同じ佐用郡内でも海拔1000mをこえる日名倉山があり、恐らく中国山地としての分布相の特色も出てくるだろうし、逆に南の方へ、よく似た低い山をいくつか越えれば、瀬戸内海的な、あるいは所謂南方的要素がぐんと加わってくるであろう。とにかく三日月という所は万事中途半端で、目立った特色のない、平凡な種類が圧倒的な小盆地である。しかし、採集していると時たま、おや、と思われるものが飛んでくる。京阪神でおもに採集してきた私が、ここで初めてお目にかかった種類もいくつかある。それらの中には、ちょっと遠い山地や海岸あたりから最近進入してきたものもあろうし、あるいはまた、この山間盆地がもっと自然林に蔽われていた頃の勢力種の生き残りであることもあろう。恐らく西播地方の佐用、上月、山崎、龍野など、こことよく似た丘陵地帯は、蛾相もこの三日月と余り大差があるまい。この一文がこれら西播地方の蛾相の一端をうかがい知る手がかりにもなればと思って筆をとった次第である。

ところで、最初断っておかねばならないのは、今私のやっている仕事は分類や分布に関する事ではないので、手許に三日月産の蛾の標本を揃えているわけで

はない、ということである。従って、採集標本に裏づけられた“目録”や“リスト”のような形では報告することができない。それでも私自身が本来は“採集屋”であるから、目ぼしいものはできるだけ展覧してあるし、たとえそれがどこにでも山ほどの最普通種であっても一応は採っておこうと心がけている。そして、採集後は飛来種についてノートにメモをしている。それらをもとに、種名と採集時期とを列挙し、必要と思われるものには短かいコメントをつけておこうと思う。採集したのは1983年6-9月、1984年3-11月、1985年6月以降でほぼ毎月1回(文末参照)、従って晩秋から冬の蛾については全く未知である。この寺(詳しくは三日月町下本郷、高蔵寺)を採集地に選んだのは全く私的な理由——ここが私の家の昔からの菩提寺であり、それ故にいろんな便宜が個人的にはからって貰える——からであって、お奨めできるような好採集地とは余り言えない。なお、現在の私の仕事(雌を生かしたまま持帰り、産卵させ、その胚から染色体を調べる)が目下の所大蛾類でせい一ぱいであるので、小蛾類はほとんど採っていない。ここでも大蛾類に限らせて頂きたい。

なお、採集時期はたとえば「6上、7上」とあれば6月上旬と7月上旬に採集したことを示すが、決して6月上旬と7月上旬「のみ」に飛来したことを意味しないし、いわんや6月上旬と7月上旬の2回の発生を意味するものではない。また、一応各月の1-10日を月上旬、11-20日を中旬、21日以降を下旬とした。学名は省略する。順序は保育社の図鑑に従うのが便利と考え、ほゞこれに合わせた。

マドガ科

1. アカジマドガ (5上、6上、7下、8上)
マドガ科では本種のみがやたらと多い。
2. マダラマドガ (5上)

ボクトウガ科

3. ゴマフボクトウ (6上、7上・下、8上、9上)
4. ボクトウガ (6上、8上)

アゲハモドキ科

5. アゲハモドキ (6中、9上)

イラガ科

6. ムラサキイラガ (6上、9上)
 7. テングイラガ (6上、7上)
 8. タイワンイラガ (6上、7下、8上) イラガ科中最も多い。
 9. ナシイラガ (6上・下、7上、8上) 前種と共に最普通種。
 10. クロシタアオイラガ (6上)
 11. イラガ (7上・下、8上)

フタオガ科

12. クロホシフタオ (6上)

シャクガ科

13. オオアヤシャク (6上・下、7上、8上、9上)
 9月の雌は容易に産卵する。
 14. ウスアオシャク (5上、6上、9上) 三日月では余り多くない。
 15. アシプトチズモンアオシャク (4下、7上)
 16. カギバアオシャク (6上・下、9上・下)
 17. ノコバアオシャク (6上) 8月にも出る。
 18. カギシロスジアオシャク (6上・下、8上、9上・下) 最普通種。
 19. コシロオピアオシャク (6上・下) 6月には前種および次種と共に大型アオシャク中の最普通種であるが、一般には余り多い種ではない。
 20. クロスジアオシャク (6上・下)
 21. キマエアオシャク (6上、7上・下) 秋までいる。
 22. スジモンツバメアオシャク (6上)
 23. ヒメツバメアオシャク (9上・下)
 24. ハガタツバメアオシャク (6上・下)
 25. ヨツモンマエジロアオシャク (6上、8上、9下)
 26. ギンスジアオシャク (6下、7下、8上、9上)
 27. クロモンアオシャク (6上、7上・下、9上)
 28. ヨツメアオシャク (6下、9上)
 29. コシロスジアオシャク (9上)
 30. ウスキヒメアオシャク (5上)
 31. ウシミズアオシャク (4下)
 32. マルモンヒメアオシャク (5上)
 以上のほかにも Jodis などの小型アオシャクがいくつか採れているが、同定していない。
 33. フタナミトビヒメシャク (4下、5上)
 34. ウスベニスジヒメシャク (6上、7上、8上)

35. クロスジオオシロヒメシャク (6上・下、9上)
 36. ヒトツメオオシロヒメシャク (7下、8上)
 37. マエキヒメシャク (8上) 他にもいろいろと *Scopula* 属小型種がくるが、採集していない。(♀の同定が厄介なので)
 38. ベニヒメシャク (9上)
 39. ホソスジキヒメシャク (7上) *Idea* 属 (= *Sterrh*) の小型種もふつうは無視している。
 40. シタコバナナミシャク (4下、5上) *Trichopteryx* 属中の最普通種。
 41. チャオビコバナナミシャク (4下)
 42. クロシタコバナナミシャク (4下) 三日月以外では私は見たことがない。上記2種と混じって飛来し、数は決して少なくない。
 43. ウスベニスジナミシャク (3下)
 44. アカモンナミシャク (3下)
 45. アトスジグロナミシャク (6上) 普通種。
 46. ホソバナナミシャク (6上)
 47. ハコバナナミシャク (4下、6上、7上)
 48. ミカヅキナミシャク (4下) 近畿の低山地では各地でとれるが数は少ない。
 49. フタモンクロナミシャク (6下)
 50. モンキキナミシャク (3下、4下、5上) 最普通種。
 51. ナカモンキナミシャク (4下) 前種と混じっているが、それほど多くない。
 52. ギフウスキナミシャク (4下) 大阪の枚岡公園では極めて多いが、箕面、妙見、吉野、それにこゝ三日月でも少なくない種である。
 53. テンツマナミシャク (5上)
 54. ナミガタシロナミシャク (6中)
 55. ウストビモンナミシャク (6上、中)
 56. キマダラオオナミシャク (10下)
 57. キガシラオオナミシャク (6下)
 58. セスジナミシャク (5上、6上) 最普通種。
 59. オオハガタナミシャク (4下、5上、6上、7下) 同様最普通種。
 60. ハガタナミシャク (9下)
 61. シロホソスジナミシャク (4下)
 62. ピロウドナミシャク (9下、10下)
 63. クロオビナミシャク (10下)
 64. ウスクロオビナミシャク (10下)
 65. シロシタトビイロナミシャク (6上)
 66. ヒメクロオビフユナミシャク (11下)
 67. ウスアカチビナミシャク (5上、6上) 春季、他にも *Eupithecia* 属の種が多数飛来する。

68. スギタニシロエダシャク (9上)
 69. ヒメマダラエダシャク (9上)
 70. ヒトスジラダラエダシャク (6上・下、9上)
 71. ユウマダラエダシャク (6上)
Abraxasは69-71の3種が大へん多い。
 72. サザナミオビエダシャク (5上、6上、7上・下)
 73. ヤマトエダシャク (5上)
 74. ウチムラサキヒメエダシャク (6上・下)
 75. クロミスジシロエダシャク (10下)
 76. ナミスジシロエダシャク (4下) 多い。
 77. オオフタスジシロエダシャク (5上)
 78. フタホシシロエダシャク (6上)
 79. バラシロエダシャク (5上、6上、7上・下、8上)
 80. ウスアオエダシャク (4下、5上、6上・下)
 81. モンオビオエダシャク (4下、5上)
 82. ウスオビヒメエダシャク (6上、8上)
 83. ハグルマエダシャク (6下)
 84. スジハグルマエダシャク (7上)
 85. シロズエダシャク (4下)
 86. ウラキトガリエダシャク (6下、9上、10下)
 87. ツマキエダシャク (5上、6上)
 88. フタテンオエダシャク (5上、6上・下、7上・下、9上)
 89. ウスオオエダシャク (6上、9上)
 90. ツマジロエダシャク (7上)
 91. キオビゴマダラエダシャク (6上・下)
 92. クロフオオシロエダシャク (5上、7上)
 93. ゴマダラシロエダシャク (6上・下)
 94. オオゴマダラエダシャク (6上・下)
 95. オオシロエダシャク (9上)
 96. クロフシロエダシャク (6上、9下)
 97. キシタエダシャク (6上・下)
 98. ヒョウモンエダシャク (6上・下、7上)
 99. チャノウモンエダシャク (6上・下、9上)
 100. クロクモエダシャク (6上、9下、10下)
 101. ナミガタエダシャク (6上)
 102. ルリモンエダシャク (5上、6上)
 103. シロテンエダシャク (3下、4下)
 104. オレクギエダシャク (6上)
 105. ナカウスエダシャク (6上・下、10上・下)
 106. フタヤマエダシャク (6上・下、9上・下)
 107. ソトシロモンエダシャク (6上、7下、8上)
 108. マツオオエダシャク (6上)
 109. ウスバキエダシャク (4下) 少ない。
 110. ハミスジエダシャク (6上)
 111. オオバナミガタエダシャク (6上・下、9下)
 112. リンゴツノエダシャク (6上・下、7上・下、8上)
 113. トビネオオエダシャク (6上、9上)
 114. ウスバミスジエダシャク (6上)
 115. フトスジエダシャク (10下)
 116. コヨツメエダシャク (5上、6下)
 117. ヨツメエダシャク (6上・下、7下、8上、9上)
 118. ヨモギエダシャク (6上・下、7上・下、8上、9上・下)
 119. トガリスジグロエダシャク (6上) 阪神地方ではそれほど珍らしくなく、三日月でも6月には数が多い。
 120. マエモンキエダシャク (6上)
 121. セプトエダシャク (4下、5上、6上・下、8上、9上)
 122. フトフタオビエダシャク (3下、5上、6上・下)
 123. オオトビスジエダシャク (6上・下、7上・下、8上、9上) **Ectropis** では他にウスジロエダシャクがいる。
 124. ウスグロナミエダシャク (6中) 少ない種。
 125. ハラゲチビエダシャク (4下、5上、6下、7下、8上)
 126. ヒロオビオオエダシャク (8上)
 127. オオトビエダシャク (9上)
 128. ミヤマツバメエダシャク (7下、9上)
 129. シロフフユエダシャク (3下)
 130. チャオビフユエダシャク (3下) 最近各地でよくとれ、箕面では♂♀共最も数の多いフユエダシャクの1つとなっている。
 131. シモフリトゲエダシャク (3下)
 132. シロトゲエダシャク (3下) この種は前種よりややおくれて出現する。
 133. オカモトトゲエダシャク (3下)
 134. トビモンオオエダシャク (3下)
 135. ハイイロオオエダシャク (6上)
 136. アミメオオエダシャク (4下)
 137. ウスイロオオエダシャク (6上・下)
 138. アトシロエダシャク (3下)
 139. ハスオビエダシャク (4下)
 140. ホソバトガリエダシャク (3下、4下) 本種の♂は夕刻に樹上を盛んにとび渡る。
 141. ヒロバトガリエダシャク (3下)
 142. ゴマフキエダシャク (6上、8上、9上)
 143. ツマトビキエダシャク (6上・下)
 144. ヒゲマダラエダシャク (3下)
 145. ウスクモエダシャク (5上、8上)
 146. クワエダシャク (9上)
 147. オイワケキエダシャク (6上・中) 6月には数多く飛来する。関西では一般に稀。
 148. ギンスジエダシャク (6下、9上)
 149. サラサエダシャク (6上、8上、9上)
 150. ハスオビキエダシャク (8上) 少ない種。
 151. マエキトビエダシャク (5上、6下、7下、9上)

152. エグリツマエダシャク (4下、5上、6上、10下)
 153. オオノコメエダシャク (10下)
 154. カバエダシャク (11下)
 155. ツマキリウスキエダシャク (5上、6上、7下、8上)
 156. コナフキエダシャク (7下)
 157. トガリエダシャク (6上)
 158. キバラエダシャク (6下、10下)
 159. ツマキリエダシャク (3下、5上)
 160. ナカキエダシャク (4下、7上・下、8上、9上)
 161. ウラベニエダシャク (6上、7上)
 162. ウスキツバメエダシャク (6上・下、9下、10下)
 163. コガタツバメエダシャク (6上)
 164. シロツバメエダシャク (6下、9下)
 165. トラフツバメエダシャク (6中)

以上シャクガ科150種以上のうち、No.124とNo.150の2種のみは夫々1♂しか得ていないが、他のほとんどは一晚に10頭以上は飛来する普通種ばかりである。

カギバガ科

166. スカシカギバ (6上、9上、10下)
 167. モンウスギヌカギバ (6上・下、9上・下、10下)
 168. ウスギヌカギバ (4下、6上・下、7上・下、8上、9上・下)
 169. ギンモンカギバ (5上、6上、8上、9下)
 170. ヤマトカギバ (4下、5上、6上・下、7上・下、8上、9下)
 171. マエキカギバ (5上、6上、8上、9上)
 172. マンレイカギバ (6上・下)
 173. ウコンカギバ (6上、8上、9上、10下)
 174. クロスジカギバ (6上、7下、9下、10下)
 175. アシベニカギバ (7下、8上、9上・下)

本科には珍しいといえる種類が無いので、採るときにも熱が入らない。それだけに見過ごしている種もいくつかあると思われる。

トガリバガ科

176. モントガリバ (6上)
 177. オオバトガリバ (6上)
 178. ホソトガリバ (6上) 前種と混じって大へん数が多い。私にとってこれら2種は厄介者で、多数採って帰るのだがどうしても産卵してくれない。近頃はや、諦めの気分である。
 179. ムラサキトガリバ (10下)
 180. マユミトガリバ (4下)
 181. ホシボシトガリバ (4下)

カイコガ科

182. クワゴ (8上)

オビガ科

183. オビガ (9下) 秋の代表的な普通種の蛾であるが、ここでは意外に少ない。

カレハガ科

184. カレハガ (9上)
 185. オビカレハ (6上・下、7上)
 186. クヌギカレハ (10下)
 187. マツカレハ (6下、7上、9上・下)
 188. ツガカレハ (9上)
 189. ヤマダカレハ (10下)
 190. リンゴカレハ (6上・下、9上)
 191. タケカレハ (6上、9上)

本科も余り感激のない蛾で、特に初夏のオビカレハは他と同じく、うるさい位飛来する。

ドクガ科

192. スギドクガ (6上・下、9上)
 193. リンゴドクガ (4下、5上、8上) 明らかにスギドクガより一足先に出現する。
 194. アカヒゲドクガ (4下、5上、6上、7上、8上、9上)
 195. スズキドクガ (6上・下、9上) 6月のドクガでは *Calliteara* (= *Dasychira*) 属中の最多飛来種。秋にも得ているので、年2化は確実である。
 196. ナチキシタドクガ (8上) 1♀を得たのみ(1983年)。
 197. マメドクガ (6下、9上)
 198. ブドウドクガ (8上、9上)
 199. ヒメシロモンドクガ (6上、8上) この雑食性のドクガは樹木だけでなく、私の住む豊中市ではイタドリにも沢山の幼虫がついている。
 200. ヤクシマドクガ (6下) 1959年に1♂飛来。
 201. スゲオオドクガ (6上、8上)
 202. エルモンドクガ (6下、8上) 両月共飛来多数。
 203. スカシドクガ (6上7下、9上)
 204. キアシドクガ (6上) 1958年は全国的に大発生して新聞種になったが、私の家にも寺の住職から問合せの電話があった程異常な大飛翔を見た。
 205. シロオビドクガ (6上・下、7上、9上) 恐らく年2化。
 206. コシロオビドクガ (9上) この珍種は♂が昼飛性で採集のチャンスがない。産ませた卵を友人に依頼して飼育して貰い、6月末に多数の♂♀が羽化した。母蛾は1984年9月1日に、シロオビドクガの

♀♀に混じって日没後すぐに飛んできたものである。

207. マイマイガ (6下、7上) 飛来夥し。
 208. ハラアカマイマイ (6下、7上)
 209. カシワマイマイ (7上) 飛来夥し。
 210. ミノモマイマイ (8上)
 211. ウチジロマイマイ (6下)
 212. ニワトコドクガ (9上)
 213. クロモンドクガ (8上、9上)
 214. ゴマフリドクガ (5上、6上、7上、9上、10下)
 Euproctis属(真正ドクガ類) 中の最普通種で、冬以外いつもいる感じをうける。
 215. キドクガ (6上・下、8上、9上)
 216. ドクガ (8上)
 ドクガ科は私の仕事の上でも重点領域である。シタキドクガとマガリキドクガが飛来するに違いないと期待している。

シャチホコガ科

217. シャチホコガ (4下、5上、6上・下、7上、8上、9上)
 218. ヒメシャチホコ (9上)
 219. セグロシャチホコ (6上、9下)
 220. ヒナシャチホコ (6上)
 221. モンクログンシャチホコ (6上) 阪神地方では最近少なくなった種で、1950年頃は普通種であった。三日月でもやはり稀種。
 222. ホソバシャチホコ (6上・下、7上・下、8上、9上) 本科中の最普通種。
 223. ツマジロシャチホコ (6上・下、8上、9上・下)
 224. ヤスジシャチホコ (6上・下)
 225. スズキシャチホコ (5上、6上)
 226. コトビモンシャチホコ (6上・下、7上、8上、9上)
 227. ノヒラシャチホコ (4下) 晩春の普通種である。
 228. オオトビモンシャチホコ (10下)
 229. アオバシャチホコ (4下)
 230. アカネシャチホコ (4下、5上、8上、9上) 年2化で、とくに春は個体数が大へん多い。
 231. イシダシャチホコ (9上)
 232. ニトベシャチホコ (6上・下、8上) 6月の普通種。
 233. ルリモンシャチホコ (6上) 少ない。
 234. ナカキシャチホコ (6上・下、7上、8上、9上) ホソバと共に最普通種のシャチホコ。
 235. ヨシノシャチホコ (6上・下、8上) 本種も多数飛来する。
 236. ユミモンシャチホコ (4下)

237. タカオシャチホコ (6上・下、8上) 普通種で、ツマジロに混じって多数飛来する。
 238. クビワシャチホコ (6上・下、7上、8上、9上)
 239. ヘリスジシャチホコ (6下、8上)
 240. バイバラシロシャチホコ (5上、6上・下、7上)
 241. アオシャチホコ (4下、5上、6上・下、7下、8上)
 242. オオアオシャチホコ (6下)
 243. ブナアオシャチホコ (8上)
 244. カバイロモクメシャチホコ (6上・下) 本種も飛来種が多い。
 245. オオギンモンシャチホコ (6下、8上、9上)
 246. ハガタシャチホコ (9上)
 247. プライヤエグリシャチホコ (6上・下、7上、8上)
 248. ムラサキシシャチホコ (6上、8上、9上)
 249. オオエグリシャチホコ (4下、5上、6上・下、7上・下)
 250. ホソバネグロシャチホコ (6上・下)
 251. モンクロシャチホコ (8上)
 252. ムクツマキシシャチホコ (6下、7下、8上)
 253. ツマキシシャチホコ (7上)
 254. クロシタシャチホコ (6下)
 255. セダカシャチホコ (6下、7上・下、8上)
 256. アオセダカシャチホコ (6上・下、7上・下) 早朝(午前3時頃)に多数飛来する。
 257. ギンシャチホコ (6上・下、7上、8上)
 258. オオモクメシャチホコ (6上) 本種も1950年頃大阪近郊で決して珍らしくなかったが、現在ではほとんどとれない。シャチホコガ科の蛾は着着いた美しい色調をしており、灯火に飛来しても余りばたつかず、ちょっと離れた所でひっそりと止っていたりして、仲々魅力的で、愛好者も多い。たゞ、深夜から早朝にかけて飛来する種が多いので、採集にもその気構えが要る。
- #### ヤガ科
259. ウスベリケンモン (9上) 近頃減じたものの一つ。
 260. コウスベリケンモン (6上)
 261. キバラケンモン (9上)
 262. ゴマケンモン (6上・下、7下、8上)
 263. キクビゴマケンモン (6下) 1♂を得たきりだが、ゴマケンモンに混じっているのを見逃していることと思われる。
 264. ミツテンケンモン (6上、8上)
 265. シロフヒメケンモン (6上・下、7上、8上、9上) ケンモン類中の最普通種で、前翅前半の白色部がよく目立ち、かつ

変異が多くて、結構採集意欲をそそり立てられる蛾である。しかしそれも2~3回の採集で、しまいにうんざりする、それほど多産する。

266. ヒトテンケンモン (6上)
 267. シマケンモン (6下、8上)
 268. サクラケンモン (5上)
 269. シロフクロケンモン (6上・下)
 270. ナシケンモン (4下、5下、6上、7上、9上・下)
 271. シロシタケンモン (6上・下)
 272. リンゴケンモン (8上)
 273. ウスズミケンモン (5上)
 274. シロモンケンモン (6上、7下、9上)
 275. イチモンジキノコヨトウ (9上)
 276. クロスジキノコヨトウ (7上)
 277. カブラヤガ (4下、6上、7上、9上)
 278. タマナヤガ (8上) ニセタマナヤガはまだとれていない。
 279. マエジロヤガ (6上)
 280. クロクモヤガ (6上、10下) 抱卵している♀は晩秋のものに限られる。
 281. カバスジャガ (7上)
 282. オオカバスジャガ (6下)
 283. コウスチャヤガ (10下)
 284. ウスイロアカフヤガ (4下、5上、7上)
 285. アカフヤガ (10下) *Diarsia* 属やそれに近縁の種は各地で飛来数の多いものだが、高蔵寺では一晩で1~2頭しか飛んでこない。
 286. シロモンヤガ (6上)
 287. マエキヤガ (9上・下)
 288. ウスチャヤガ (9上・下、10下)
 289. ハイロキシタヤガ (6上・下、9上・下)
 290. カギモンヤガ (4下)
 291. タバコガ (9下)
 292. シロシタヨトウ (5上、6上)
 293. フサクピヨトウ (6上) 少ない種。
 294. フタスジヨトウ (6上)
 295. カバキリガ (3下)
 296. カギモンキリガ (4下)
 297. クロミミキリガ (4下、5上)
 298. ブナキリガ (3下)
 299. ホソバキリガ (3下、4下)
 300. クロテンキリガ (4下、5上)
 301. シロヘリキリガ (3下、4下)
 302. スモモキリガ (3下、4下)
 303. カシワキリガ (3下、4下)
 304. アカバキリガ (4下、5上)

305. スギタニキリガ (3下)
 306. ケンモンキリガ (4下)
 307. マツキリガ (4下、5上)
 早春のキリガ類は、採集回数が少ないだけでなく、周辺の環境から言っても、余り多種類は期待できそうにない。
 308. フタオビキヨトウ (6上、9上)
 309. マメチャイロヨトウ (9上)
 310. マダラキヨトウ (5上)
 311. クロキシタヨトウ (6上、9上)
 312. ナカオビキリガ (10下)
 313. ハンノキリガ (3下、11下)
 314. カシワキボシキリガ (3下)
 315. ミツボシキリガ (3下)
 316. ヨスジノコメキリガ (3下)
 317. チャマダラキリガ (3下、4下)
 318. クロチャマダラキリガ (3下)
 319. キマエキリガ (3下)
 320. フサヒゲオビキリガ (3下)
 321. テンスジキリガ (3下、5上)
 322. ホシオビキリガ (3下)
 323. カシワオビキリガ (3下)
 324. エグリキリガ (5上) 飛び古した1♀。
 325. ウスキトガリキリガ (10下)
 326. ノコメトガリキリガ (10下、11下)
 327. ミドリハガタヨトウ (11下)
 328. ホソバハガタヨトウ (11下)
 329. ヘーネアオハガタヨトウ (11下)
 330. ヒメカバマダラヨトウ (7下)
 331. ペニモンヨトウ (6上)
 332. マエホシヨトウ (9上)
 333. ウスアオヨトウ (6上)
 334. ハジマヨトウ (8上)
 335. ゴボウトガリヨトウ (10下)
 336. クマソオオヨトウ (7上) 1983年7月9日に3頭採集。
 337. アカガネヨトウ (6上)
 338. コクロモクメヨトウ (4下、5上)
 339. ホソバネグロヨトウ (6上)
 340. ネグロヨトウ (6上)
 341. チャオビヨトウ (6上・下、7上、9上)
 342. シロスジアオヨトウ (6上、9上・下)
 343. ハスモンヨトウ (10下)
 344. スジキリヨトウ (9上)
 345. ハイロモクメヨトウ (6下、9上)
 346. モクメヨトウ (5上、6上、9上)
 347. シロマダラヒメヨトウ (6上・下)

348. モクメカラスヨトウ (6上)
349. オオシマカラスヨトウ (7上・下、8上、9上・下、10下) 産卵期は晩秋以降。
350. カラスヨトウ (7上・下、8上、9上、10下) やはり産卵は晩秋である。
351. シロスジカラスヨトウ (8上・下、9上・下、10下)
352. オオウスツマカラスヨトウ (7上、9上)
353. ノコメセダカヨトウ (6下)
354. シマキリガ (7上)
355. シラオビキリガ (6下、10下) 秋には数が多い。
356. フタテンヒメヨトウ (9上)
357. キクビヒメヨトウ (6上・下、8上、9上) 小型ヤガ中の最普通種。
358. ムラサキツマキリヨトウ (6上・下、8上、9上)
359. マダラツマキリヨトウ (6上、9上)
360. シロスジツマキリヨトウ (9上)
361. アヤナミツマキリヨトウ (9上)
362. シロモンオビヨトウ (6上、8上、9上)
363. シロテンウスグロヨトウ (6上、7上、8上)
364. ヒメサビスジヨトウ (9上)
365. ヒメウスグロヨトウ (5上)
366. テンウスイロヨトウ (6上、9上)
367. クロテンヨトウ (4下、5上)
367. マルモンシロガ (6下)
369. コマルモンシロガ (6上・下、7下、8上、9上・下) 前種より数が多く、殊に秋には夥しい程に飛来する。
370. ムジギンガ (9下)
371. ネジロキノカワガ (6上)
372. ネスジキノカワガ (5上)
373. ベニモンアオリンガ (6上)
374. アカマエアオリンガ (5上、6上、7上、8上、9上)
375. クロオビリンガ (4下、5上、9下)
376. カマフリンガ (6上、7下、9上)
377. ミドリリンガ (6下、8上、9上・下、10下) 秋には個体数が非常に増える。また、晩秋の♀は容易に産卵する。
378. アオスジアオリンガ (5上、7上、8上、9上)
379. アカスジアオリンガ (4下、5上、6下、7下、8上、9上)
380. ギンボシリンガ (7下)
381. リョクモンオオキンウワバ (9下)
382. イチジクキンウワバ (10下)
383. ギンモンシロウワバ (8上、9下)
384. ギンスジキンウワバ (5上)
385. イネキンウワバ (8上)
386. オオマダラウワバ (5上)
387. ユミガタマダラウワバ (6上)
388. ジマフコヤガ (6上、9上)
389. カバイロシマコヤガ (8上)
390. ウスベニコヤガ (6上・下、8上、9上)
391. テンモンシマコヤガ (6上)
392. ヒメクルマコヤガ (6上)
393. モンシロクルマコヤガ (6上、10下) 普通種。
394. マエヘリクルマコヤガ (6上、8上)
395. ハススジクルマコヤガ (7上、9上)
396. モモイロツマキリコヤガ (6上、9下)
397. ウスキコヤガ (6上、7上、9上) 最普通種。
398. シロスジキノコヨトウ (6上、8上)
399. ウンモンキノコヨトウ (9上)
400. アミメケンモン (6上、7上、8上)
401. ヨモギコヤガ (6下、7上、9上)
402. ヒメネジロコヤガ (7上、8上、9上)
403. ネジロコヤガ (6上・下)
404. シロフコヤガ (6上)
405. シロマダラコヤガ (6上、8上、9上)
406. ウスシロフコヤガ (6上)
407. ネモンシロフコヤガ (6上)
408. シロモンコヤガ (6上)
409. キモンコヤガ (5上、7上)
410. ウスアオモンコヤガ (6上)
411. ウチジロコヤガ (6上)
412. フタホシコヤガ (6上) よく似たシロヒシモンコヤガは以前、京阪神で普通に見られたが、最近減少したようである。
413. シロフタオビコヤガ (9上)
414. フタイロコヤガ (6上)
415. サビイロコヤガ (5上、10下) コヤガ類は十分に採っていないので、出現期の参考には余りならないかも知れない。
416. キシタバ (9上)
417. ジョナスキシタバ (10下) 1984年10月27日に飛び古した1♀を採集。北方の中国山地からの迷い子?
418. アサマキシタバ (6上) 1984年6月5日多数の新鮮な個体が飛来。20頭以上を採集しておいた。
419. コガタノキシタバ (7下)
420. マメキシタバ (7上、8上、9上・下) 普通種。
421. アミメキシタバ (7下、8下、9上・下) 長期に亘ってぼつぼつととれる。
422. カバフキシタバ (7下) 1984年7月24日新鮮な1♂。
423. ウスイロキシタバ (6下、7下) さほど珍しい

- 種ではない。例えば、1984年6月27日に計18頭採集。
424. ヒメアシプトクチバ (6上)
425. タイリクアシプトクチバ (9上) 1983年9月6日1♂。アシプトクチバの小柄な個体かと思いつつ念の為にとっておいた1頭である。
426. クビグロクチバ (9下)
427. ヒメクビグロクチバ (7下)
428. アサマクビグロクチバ (9上・下)
429. ウンモンクチバ (6上)
430. ニセウンモンクチバ (5上、6上、7上・下、8上)
Mocis 属では本種が圧倒的に多い。
431. モンキムラサキクチバ (4下、5上、7上・下、8上、9上・下)
432. モンシロムラサキクチバ (4下、7上・下、8上)
433. コヘリグロクチバ (7下)
434. カキバトモエ (6上、7上)
435. シロスジトモエ (5上、6上、7上・下、8上)
436. ハグルマトモエ (6上、7上・下、8上、9上)
437. オスグロトモエ (6上、7上・下、8上、9上)
438. フクラスズメ (10下)
439. ワタアカキリバ (6上)
440. アカキリバ (9上)
441. アカエグリバ (7上)
442. オオエグリバ (8上、9下)
443. マグラエグリバ (6上、7上・下、8上)
444. ウスムラサキクチバ (4下、5上)
445. アカテンクチバ (6上、7上)
446. コウンモンクチバ (7上・下、8上) 多産種。
447. ウスツマクチバ (5上)
448. オオトモエ (6上)
449. アケビコノハ (9上)
450. シラフクチバ (6上)
451. アヤシラフクチバ(アヤクチバ) (6上)
452. オオシラフクチバ(ハガタクチバ) (6上、9上)
453. オオシロテンクチバ (4下)
454. ヒメムラサキクチバ (6上)
455. マエヘリモンクチバ (6上)
456. マエジロクチバ (6上、9上)
457. シャクドウクチバ (6上、7下、8上) 多産種。
458. ウンモンツマキリアツバ (6上、9上)
459. ミツボシツマキリアツバ (8上)
460. ツマジロツマキリアツバ (6上)
461. ウスモイロアツバ (9上) 1983年9月6日多数飛来。講談社の大図鑑で発表された新種である。
462. リンゴツマキリアツバ (6上)
463. マエモンツマキリアツバ (6上)
464. チョウセンツマキリアツバ (6上、9上)
465. アトヘリヒトホシアツバ (9上) これも余り知られていない小型種。
466. ニセミカドアツバ (5上)
467. クロキシタアツバ (8上、9上)
468. タイワンキシタアツバ (5上、6上、7上・下、9上)
469. キシタアツバ (7上、8上、9上)
470. ヤマガタアツバ (5上、6上、7上、8上、9上)
471. ホシムラサキアツバ (7上)
472. モンクロアツバ (5上)
473. ソトムラサキアツバ (7下、9上)
474. ナカシロアツバ (4下、5上)
475. アヤナミアツバ (9上)
476. オオシラホシアツバ (6上、8上、9上)
477. ニセツマアカアツバ (6上、9上、10下)
478. ヒゲブクロアツバ (9上、10下)
479. ツマオビアツバ (9上)
480. ウスグロアツバ (6上、9上)
481. キイロアツバ (6上)
482. シラナミアツバ (6上)
483. フタスジアツバ (6上)
484. シラナミクロアツバ (9上)
485. フジロアツバ (6上)
486. ソトウスグロアツバ (4下、7上)
487. ハナマガリアツバ (6上、9下)
488. ウスキモンアツバ (7上) 講談社大図鑑の写真より黄紋が大きく濃い。

ヒトリガ科

489. ツマキホソバ (6上) Eilema属のホソバは多数飛来するが、♀の同定が厄介なのでほとんど採集していない。
490. ケベリネズミホソバ (6上)
491. マエキクロホソバ (6上)
492. マエグロホソバ (6上、7上、9上・下)
493. ヨツボシホソバ (6上、7上、9上・下、10下)
マエグロとヨツボシの♀は腹端の生殖孔で外見から簡単に区別ができる。
494. クビワウスグロホソバ (6上) 6月の最普通種。
495. ゴマフオオホソバ (6上、8上、9上) 当地では多産する。♀は6月と9月の2回産卵する。昼間飛ぶのは見たことがない。
496. アカスジシロコケガ (6上、7上、9上)
497. オオベニヘリコケガ (6上、9下)
498. ヒメホシコケガ (7上、8上) 本州から未記録のようだが、最近大阪の能勢でもとれている。

九州産より大きい。

- 499.フタホシキコケガ (8上)
 500.ベニヘリコケガ (6上、8上、9上)
 501.ハガタバニコケガ (8上)
 502.ゴマダラベニコケガ (7下、8上)
 503.スジベニコケガ (6上、8上、9上・下)
 504.ゴマダラキコケガ (6上)
 505.クロテンハイロコケガ (6上、7上)
 506.モンクロベニコケガ (6上、7上、8上、9上)
 507.ベニシタヒトリ (6上、9上) 多い。
 508.ホシベニシタヒトリ (9上) 前種と共に多数飛来する。
 509.キハラゴマダラヒトリ (6上、7上、9上・下)
 510.アカハラゴマダラヒトリ (6上、7下、8上)
 511.シロヒトリ (8上、9上)
 512.クロフシロヒトリ (5上)
 513.フタスジヒトリ (6上)
 514.カクモンヒトリ (6上、9上・下、10下)
 515.スジモンヒトリ (6上、8上、9上)
 516.キバネモンヒトリ (7上)
 517.オビヒトリ (6上、7上)
 518.アカヒトリ (9下)
 519.クワゴマダラヒトリ (9上)

コブガ科

- 520.ニセオオコブガ (9下)
 521.リングコブガ (6上)

カノコガ科

- 522.カノコガ (6中) 道傍の草地で。

イボタガ科

- 523.イボタガ (4下) 最近めつきり数の減った蛾で、めつたにとれなくなった。

ヤママユガ科

- 524.オオミズアオ (6上、7上・下、8上) 類縁種のおナガミズアオはまだとっていない。
 525.シンジュサン (6中) 本種も最近姿を見せなくなりつつある。
 526.ヤママユガ (8上、9上・下) 1983年には8月1日に2♂の飛来を見た。なお、1984年9月1日には飛来数が余りにも多いので、できるだけ色変りのものを4-5頭とっておいたが、帰宅後調べてみるとそのうちの1頭が、左右完全に分れた雌雄型であった。

- 527.エゾヨツメ (4下) 多数飛来する。
 528.クスサン (8上・下、9下、10下) 秋の蛾だが1983年には8月8日に既に飛来した。
 529.ヒメヤママユ (10下)

スズメガ科

- 530.メンガタスズメ (9上)
 531.エビガラスズメ (9下)
 532.シモフリスズメ (6上、7下、8上、9上)
 533.エゾシモフリスズメ (6中)
 534.サザナミスズメ (6上、8上)
 535.ホソバスズメ (6上、7下、8上)
 536.アジアホソバスズメ (6上・中、8上) 多数飛来したホソバスズメから、証拠品として1♂だけ採集しておいたものが、帰宅してからアジアホソバスズメであることが分った。以後注意しているが、時にはアジアのみしか飛来しなかった夜もある。
 537.トビイロスズメ (7下、8上)
 538.クチバスズメ (6上・中、7下、8上)
 539.モモスズメ (6上・中、7上・下、8上)
 540.コウチスズメ (5上) 1984年5月9日1♂。
 541.ウンモンズズメ (5上、6上、7下、8上)
 542.エゾスズメ (6上・中、7上)
 543.クルマスズメ (6上・中、8上、9上)
 544.ブドウスズメ (6中)
 545.クロホウジャク (6上・中)
 546.コスズメ (6上・中、7下)
 547.ベニスズメ (6上、9上)
 548.ピロウドスズメ (6上・中、7下、9上)
 549.ミスジピロウドスズメ (6上) これも6月5日に多数飛来したピロウドスズメの中から偶々採集しておいた1頭が帰宅後ミスジと判明した。以後気をつけているが、それきりまだとれない。
 550.ハネナガブドウスズメ (4下)
 551.キイロスズメ (9下)

スズメガ科では飛来しても無視することが多いので、なお2-3種の洩れがあるかも知れないし、飛来時期ももっと多かったと思う。なお、本年(1985)は西日本のあちこちで久しぶりにオオシモフリスズメが多数発生し、聞くところによるの能勢のさる駐車場の水銀灯下で100頭も拾ったという話があり、現に私も道路傍の水銀灯下で車の下敷になった多数の死骸を目にした。四国でも今年は随分多かったということである。残念ながら三日月では今年も遂に姿を見ずじまいであった。

以上約550種は、研究に必要な雌だけを見分けながら採るわけにはいかぬのでこれと思った飛来個体を一応生かしたままプラスチックケースに入れて持帰り、あとで雌を選り分けるときに、序でにメモしておいた種名をまとめたものである。目ぼしい種は展翅してあるが大部分は学生の解剖用や外国送りなど、他の用に廻してしまう。抱卵した雌は産卵するまで生かしておくので、最後にはすっかり鱗粉が剥げ落ちたり、翅がすり切れてしまったりする。私にとって三日月はいつでも採集に行けるところなので、却って一通りの標本が仲々揃えられない。しかし、分布を調べている人達にとっては少しでも情報が欲しいものだということは私自身よく承知しているので、標本を揃えてはいないが敢てまとめてみた次第である。

参考までに、高蔵寺で徹宵して採集した日時は次の通りである。

1983年：6月=6-7日, 7月=9-10日, 8月=1-2日,
8-9日, 9月=6-7日。

1984年：3月=29-30日, 4月=28-29日, 5月=9-
10日, 6月=5-6日, 27-28日, 7月=24-25
日, 9月=1-2日, 29-30日, 10月=27-28日,
11月=24-25日。

1985年：4月=25-26日, 6月=19-20日。

(S.24: Akito Kawazoe 豊中市)

県下の蝶数種の新産地

広畑政己

1. ミスジチョウ

本種は県下では採集記録の少ない種の1つでもあったが、越冬幼虫の調査によって近年数多くの産地が発見されている。特に播磨地域では僅かながら採集されているという程度だったが、調査の結果、北部には広く分布していることが判明している。最近では安富町の南部や相生市の三濃山で採集されたようで、ホシミスジが庭のユキヤナギで分布を都市部にまで広げているように、本種も庭のモミジをたよりに今後次第に分布を南部にまで拡大していくものと推測できる。新しく発見した産地は下記の通りである。また、浅田・徳岡の両氏より水上郡の記録を御提供いただいたので併せて報告しておきたい。

<採集記録>

宍粟郡山崎町土万	幼虫2頭	4-III-1984	広畑政己
飾磨郡夢前町寺河内	幼虫2頭	11-III-1984	"
水上郡春日町舟木	幼虫5頭	2-IV-1983	徳岡正己
" " 国領	幼虫1頭	2-IV-1983	"
" 市島町北奥	幼虫4頭	12-I-1984	浅田 卓

2. ヤマキマダラヒカゲ

一宮町福知溪谷にて本種を採集している。一宮町では小原、富士野に記録があるが、よく調査がされていないので、概知産地は極めて少ない。福知の記録は播磨地域では峰山につぐ南の記録である。

<採集記録>

宍粟郡一宮町福知溪谷	1♂	1-VII-1984	広畑政己
------------	----	------------	------

3. メスアカミドリシジミ

本種は県下中西部の山地に広く分布している。南部で低標高地にいくほど産地も少なくなり、その記録としては夢前町雪彦山、佐用町上石井などが南限の記録となっている。この度福崎町田口にて本種の卵を採集したので南限付近の記録として報告しておく。

採集したのは七種山山麓の田口で、七種川沿に残った一本の山桜(種不明)から3卵得ている。その近辺はほとんど植林されているか、雑木が伐採され、本種が生息するには好ましい環境ではないが、川沿に残された僅かな緑をたよりに、かろうじて生きながらえているという感じである。この記録は県下での南限の記録である姫路市林田町六九谷には及ばないが、それに継ぐ南の記録である。

また、千種町天児産に於ても4卵採集しているので併せて報告しておく。千種町の山林は伐採、植林がすすみ、林が残っているところが極めて少なくなっている。この天児屋でも、谷川沿にぼつんと残った数本のサクラで発生している。

調査に御協力いただいた近藤伸一、森下泰治、石井為久の諸氏にお礼申し上げる。

<採集記録>

神崎郡福崎町田口	3卵	4-X-1984	広畑政己
宍粟郡千種町天児屋	4卵	28-XI-1984	広畑政己

(S28: Masami Hirohata 〒671-22 姫路市)